

まえがき

第3回京大天文台アーカイブ報告会は、昨年と同じく暑い最中鴨川河畔の研究資源アーカイブの映像ステーションにて開催されました。ひきつづき山本天文台関連の報告が中心になりました。

京大日食展（2012年4月25日～5月20日、京大総合博物館）では、第二部「渋川春海の改暦」コーナーに山本資料のなかから渋川春海の『天文成象』をはじめとする暦学関連資料、第三部「京大日食観測隊」コーナーにスマトラ日食、ペルー日食の資料を多数展示し入館者の関心をよびました。とりわけペルー日食で皆既日食の観測に使用された35ミリ映像フィルム等をデジタル化して、会場に常時上映できた意義はたいへん大きかったと思います。また、大阪市立科学館の企画展「渋川春海と江戸時代の天文学―天地明察の時代―」（9月4日～10月21日）、江戸東京博物館の特別展示「渋川春海と江戸時代の暦」（9月4日～11月11日）にも暦学関連資料を貸し出しました。



京大日食展での日食映像デジタル上映（魚眼レンズで撮影）

天体写真乾板の整理・スキャン作業は前原・北井両氏のご尽力により着々と進んでおります。成果が期待されるところです。

京大デジタルリポジトリ KURENAI にて公開されました戦前の東亜天文学会誌『天界』につきましても、宇宙物理学教室図書室・花山天文台図書室所蔵の天界誌のぬけている巻を本家の山本天文台資料から補い完璧を期すことができました。

メディア関連では、NHK 大阪放送局制作の「歴史秘話ヒストリア #120 いつだって天文ゴールドイヤー！ ～星々と日本人 はるかな物語～」(9月12日放送)と、『ミセス』誌9月号の「宇宙を見上げていますか？」に取材・撮影協力いたしました。

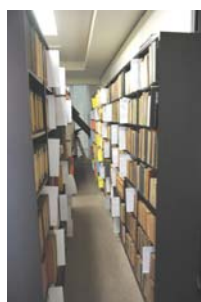
第2観測室2階にあった山本先生の祖父にあたる栗斎翁の医事資料については研究資源アーカイブの五島氏が科研費での調査を行っておられます。また宮本正太郎先生の資料が京大に寄贈されました。宮本資料も同じ部屋に保管することになっております。山本天文台資料の開陳が済みましたら、こちらも棚にならべる予定です。

資料室は益川記念館2階のプロジェクト室2室を使用させていただいております。什器

類については予算がないことから、山本天文台のまだ使用できる木製棚、机などはそのまま使っております。資料整理のための書架については、格安の木製書架を 53 個購入したほかは、学内各所で不要になったスチール製の棚やキャビネットを譲っていただくことで対応しました。この 1 年あまりの間に立派なロッカー 6 個、キャビネット 2 個、書架 32、小テーブル、椅子などが集まり、約 600 箱の資料をすべて開陳することが可能となりました。また、稲垣自動車整備工場社長からは電波掛時計を 1 台寄贈いただきました。



現在の資料室書齋コーナーのようす



資料の並び



新しく入ったスチール書架

こうした作業の続く中、山本天文台資料室には各方面から多くの方々の見学、資料調査をたまわりました。すべてを網羅しているわけではありませんが巻末に「資料室日誌」を載せておりますので、ごらんください。

今後は、今年中にすべてのダンボール箱を開封して棚に資料を並べ終わり、目録づくりに取り掛かれるのではと思います。最大のモノで最後まで残されています六角形回転機は 205 号室の空いたスペースに組み立て復元する予定です。数本の星図掛図につきましては、附属図書館の経費で修復とデジタル化、および貴重書指定の方向で動いております。このプロジェクトの目標は、宇宙物理学教室創立 95 周年にあたります 2016 年をめどに、山本一清伝を共同執筆・出版すること、および山本天文台資料展を開催することにあります。

小川村の坂井氏からご寄贈いただいたカルバー 46cm 反射望遠鏡をはじめとする資料については来年度から調査にとりかかれるものと思います。

なお、今回の報告会では時間の関係もあり山本天文台のモノ資料についての口頭での報告は 2、3 の紹介にとどめ、配布資料の形で参加者の方々に目を通してもらうことにしました。その後も興味深いモノについていくつかの記事を書きましたので、それらも合わせて「山本天文台モノ資料」としてまとめて後半に集録しました。今後目録づくりの作業が始まるとモノ資料についての調査はしばらく中断することになりますので、ここで一まとめしておくつもりで掲載させていただきました。

表紙と報告会プログラムの下の写真は、ブローニーネガフィルムの中から選んだものです。とりわけ 1922 年～25 年にご夫妻で欧米留学にゆかれたおりの写真は芸術性の高いもの、ウィットに富んだものがあり、拝見するのも楽しみなものです。今回その一部をプリントして会場に並べました。次回の報告会では、より詳しい紹介を行えるものと思います。

(2012 年 11 月 富田記)